

| | | | | |
|------|-------|----------------|--|-----|
| 科目名称 | 解剖生理学 | 学年学期 | 単位数 | 時間数 |
| | | 1 学年前期 | 1 | 30 |
| 担当教員 | 椿 雅光 | 授業に関わる 実務経験 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 (医師) <input type="checkbox"/> 無 | |

【1】 授業概要

准看護師科での授業において既習している科目ではあるが、再度理解を深め、疾病の成り立ちと回復の促進へ繋ぐ科目として設定した。人間が生きていくためにバランスよく営まれている生命維持との関連や身体反応の出現のメカニズムの基礎を理解する。

【2】 学習目標

1. 人体を形成する基本単位(細胞・組織・器官)について理解する。
2. 各組織の構成要素、組織の構成・種類について理解する。
3. 各器官の生理的役割を理解する。

【3】 第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
- 2. 人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。
- 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
- 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
- 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
- 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
- 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心を持ち、主体的に学び続けることができる。

【4】 授業計画

| | 内容 | 主な授業形態 |
|----|-----------------|---------|
| 1 | 解剖生理学を学ぶための基礎知識 | 講義・小テスト |
| 2 | 解剖生理学を学ぶための基礎知識 | 講義・小テスト |
| 3 | 栄養の消化と吸収 | 講義・小テスト |
| 4 | 栄養の消化と吸収 | 講義・小テスト |
| 5 | 呼吸と血液の働き | 講義・小テスト |
| 6 | 呼吸と血液の働き | 講義・小テスト |
| 7 | 血液の循環とその調整 | 講義・小テスト |
| 8 | 体液の調節と尿の生成 | 講義・小テスト |
| 9 | 内臓機能の調節 | 講義・小テスト |
| 10 | 内臓機能の調節 | 講義・小テスト |
| 11 | 身体の支持と運動 | 講義・小テスト |
| 12 | 情報の受容と処理 | 講義・小テスト |
| 13 | 身体機能の防御と適応 | 講義・小テスト |
| 14 | 生殖・発生と老化の仕組み | 講義・小テスト |
| 15 | 筆記試験・まとめ | |

【5】 評価方法

主として筆記試験で評価するが、出席数と小テスト回数を加味する。

【6】 教科書

坂井建雄: 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学(第11版) 医学書院 2025 (電子版)

【7】 参考書

参考書は指定しない。

【8】 受講生へのメッセージ

元外科医です。授業の内容に関係することであれば、臨床のことについても質問してかまいません。解剖生理については医学の基礎の基礎です。勉強して損にはなりません。最近国家試験にもこの分野から出題されています。